

なな

1 月号
vol. 203

謹賀新年

令和六年



特 集
おとなの
社会科

第14講 歴史——松虫物語・後編

おとなの社会科

第14講 歴史——松虫物語・後編

昔、使った教科書をパラパラめくってみると、あの頃には気づけなかった面白さがみえてきた——そんな経験はないだろうか。学校の教科書は昔と同じではない。だから、大人になってからの学び直しも決してムダではないはず。学校に通ってた頃を思い出して、もう一度、目の前に広がる社会を学び直してみませんか。

風待ちの港で

大阪から阪神・山陽電車でおよそ2時間。終着の山陽網干駅は姫路市の南の外れにある簡素な駅だった。ここから岬巡りのバスで海沿いの道を30分ほど行き、たつの市の室津という小さな港町に

降り立った。日差しは強いが風は乾いている。夏が終わろうとしていた。

室津は播磨灘に面し、近代以前には瀬戸内における海上交通の要衝として繁栄した。江戸時代には参勤交代の宿駅、また北前船の寄港地としても大いに賑わったとい

う。粉河寺を出た松虫姫と鈴虫姫が舟で生口島に向かっていた頃、法然も流刑地の讃岐へ向かうべく、舟で瀬戸内海を西に進んでいた。その途中、ここ室津で友君と名乗る遊女に出会う。

若き日の友君は山吹御前という名で、木曾義仲に仕える女武者だった。1184年に義仲が従兄

弟である源義経らとの戦いで討死した後、山吹御前は都を脱出して逃避行を続けるが、流れ着いた室津でお腹の子を死産。供養のためこの地に留まって遊女になったのだという。

友君は琴や舞踊、流行りの歌で旅人を歓待し、いつしか遊女の長になった。瀬戸内の穏やかな日差しや波の音、そして土地の人々の温かさが、流れ者の友君をこの世に繋ぎ止めていた。高僧である法然が室津に来ると聞いたのは、そんな日々のことだった。友君は風待ちのため入港する法然に小舟で近づき、心の苦しみを打ち明ける(①)。話を聞いた法然はその身の上を憐れんで念仏の功德を説き、歌を一つ贈った。

“飯そめの色のゆかりの恋にだに逢うには身をも惜しみやはする”
はかない恋でさえ、命を懸けて契ることがある。ましてや仏の教えに出逢ったのならば、それ以上

の覚悟で求道しなさい、という歌。友君は法然の言葉に涙を流して喜び、近くの浄運寺に出家する。その後は義仲と死産した子の供養に生き、自身も念仏を唱えて往生したという。

友君の墓前に立つと、室津の空と海が一望できた(②)。60キロ隔てた対岸は讃岐である。法然は室津から真つすぐ讃岐には向かわず、生口島に逗留して松虫姫と鈴虫姫を訪ねたという。生口島は二人が終の棲家を選んだ場所。松虫の響きを追う旅も、次が最後になりそうだった。

しまなみを越えて

秋も深まった10月の終わり。列車は潮の流れに沿って山陽路を西へと走り、やがてゆつくりと尾道駅のホームに滑り込んだ。この街が起点のしまなみ海道に乗って向島、因島と進み、その次の生口島で降りる。光明坊は島の南側、海

が見える日当りの良い場所に建っていた(③)。

室津と同じく瀬戸内海航路の要衝だったこの地に、聖武天皇の勅願によって光明坊が創建されたのは730年頃のこと。平安時代末期には、後白河法皇の皇女である如念尼公が尼として入寺する。松虫姫と鈴虫姫は、この如念尼公を



国宝『法然上人行状絵図』に描かれた、室津で法然と友君が出会う場面

①



②

浄運寺に立つ友君の墓。室町時代初期の1339年に建立されたという



光明坊に並び四つの五輪塔。左から法然、如念尼公、松虫姫、鈴虫姫の墓とされる

頼って光明坊に身を寄せた。法然にこの地での逗留を勧めたのも如念尼公だったという。

法然は90日にわたって光明坊で説法をし、島民からも大いに歓待を受けた。その間には、室津での友君との印象深い出会いを、松虫姫と鈴虫姫に語って聞かせたかもしれない。やがて法然が讃岐へ



光明坊の本堂(右)と大師堂。現在の本堂は江戸時代初期に再建された

去った後も、二人はこの地で念仏に向き合い、住蓮と安樂の供養に生きた。

承元の法難から14年後の1221年、「承久の乱」と呼ばれる、朝廷と鎌倉幕府の対立抗争が起きた。後鳥羽上皇は執権の北条義時に挙兵するが、大敗し失脚。日本海に浮かぶ隠岐島に流罪となる。若かりし日に法然や親鸞に下した流刑の罪を、今度は自らが背負うことになった。この生口島にも、承久の乱や、上皇の流罪の話は伝わっただろう。その時、松虫姫と鈴虫姫は何を思っただろうか。同じ世にまた住之江の月や見む今日こそ他所の隠岐の島守

上皇が隠岐で詠んだ歌を集めた『遠島百首』には、都を追われ全てを失った後の、孤独な日々的心情が刻まれている。この歌では、生きている間にあつた住之江(住吉)の月をもう一度見られるだろうか、と懐かしんでいる。

大阪の住吉大社は平安時代以降に和歌の神として信仰を集めた第11講「津守浦」参照が、中世屈指の歌人として知られた後鳥羽上皇もまた、熱心な参詣者の一人だった。もう見るこのできない、追憶の津守浦。西成から隠岐までの長い道のりに、涙の跡が点々と落ちていく。

訪へかしな雲の上より来し雁も独り友無き浦に鳴く音を

この歌も『遠島百首』の中の一つである。誰か、私に会いに来ておくれ。雲の上からやって来た雁の鳴き声だけが響く、一人の友もない浜辺に立つ私のところへ。やがて世の無常を悟った上皇は、自らが弾圧した浄土宗に帰依し、阿弥陀仏の救いを求めるようになる。上皇は隠岐に19年間暮らしたが、最期まで帰京は叶わず、1239年に60歳でこの世を去った。かつて栄華に酔った権力者も、死ぬ時は身一つである。松虫姫と鈴虫姫

もまた、都には帰らず生口島で生涯を終えた。享年は松虫姫が35歳、鈴虫姫が45歳。二人は恩人である如念尼公と共に、瀬戸内の柔らかな光の中で静かに眠っている(4)。

月の綺麗な秋の夜には、街のざわめきに注意深く耳を傾けてほしい。生口島や隠岐からの潮風が、西成の大地を吹き渡る音が聴こえるはずである。もしその中に雁の鳴き声が響いたら、それは孤独な流れ者が、帰れない故郷を想って泣いているのである。

流れ者たちの物語

承元の法難で越後に流罪となった親鸞の、その後について触れておきたい。4年後に流罪を赦された親鸞は、讃岐から帰京していた法然の元へ行くこととするが、雪が深く身動きが取れない。その間に法然は80歳でこの世を去り、二人が生きて再会を果たすことはなかった。

親鸞はやがて都に背を向けるように、布教のため東国の常陸へと旅立つ。30年後に帰京してその後も布教を続けるが、晩年に書かれた文章でも、後鳥羽上皇による弾圧を厳しく非難している。上皇への怒りと、住蓮と安樂の若い面影は、最期まで親鸞の心に刺青のように刻まれていた。90歳で没して以降、その教えは多くの弟子たちによって浄土真宗へと発展していく。

尾道に戻ってから、市街地の中にある千光寺山(せんこうじ)に上った(5)。標高は140メートルで、山というよりも小高い丘のように見える。空が夕暮れから夜に変わる前の、ほんの僅かな蒼い時間。頂上から見る尾道はいかにも坂の街らしく、海岸線から山肌を覆うように家々が広がる。海に沿って連なる眩しい灯が、盆の灯籠流しのように見えた。しかし、どんな華やかな光も虚し

ただけだろう、死者への祈りがなければ。

春に岸里の交差点で聴いた松虫の声を追いかけて、流れ者のようにこの世と異界の境を旅した。その途上には墓碑銘や道標のように、いくつもの歌が流れていた。流転、流浪の人々は歌と共に歩き、昼は杖の代わりに、夜には枕の代わりにしたのだ。松虫姫と鈴虫姫、法然に親鸞、友君、そして後鳥羽上皇も、そのようにしてそれぞれに異郷での暮らしを耐えたのだ。

そうした歌の大半は文字として残ってはいないが、言葉となつて今もこの国の隅々に広がっている。西成や阿倍野に建ち並ぶ家々の隙間から、紀州、播磨、安芸、讃岐、越後、常陸、隠岐の浜辺、みちのく路や山陽



千光寺山頂の展望台から見た尾道の夕景。遠くに瀬戸内の島々が連なる

親しまれていたらしい。

『尽きせじな愛でたき心知るならば苔の下にも友や松虫』

これは松虫殿が遺した辞世の歌。後鳥羽上皇とはあまりにも対照的に、ただひたすらに無名の人生を愛し、松虫の響きを愛してこの世を去った男。瞬く間に全てが移り変わるうたかたの世にあつて、果たして「良い人生」とは一体何だろう。

人の世は夢や幻も飲み込んで、水のように形を変えて巡り続ける。歌や物語もまた、幾度も歌われ、語られ直すことによって新たな生命を得る。それぞれの小さな灯に宿る、それぞれの歌や物語。今夜、尾道の山の上にも、松虫の歌が確かに響いた。

誰もが、全ての灯が消えた後も、それでもまだ終わることのない物語を探している。

だと思った。奥の厨房でお母さんが忙しそうに料理を削いているのを見て、筆者も大学4年間お好み焼き屋でアルバイトをしていたが、手先が不器用過ぎて一度も焼かせてもらったことがなかったな、と思い出に浸る。

筆者の目を引いた「ハート玉」が運ばれてきた。そう、ハート玉とは名前の通り、ハートの形をしたお好み焼きだった。12月クリスマス前という心躍るこの時期にぴったりで、インスタにあげ



ればバズるのではないかと思いながら実食。

ハートの半分が明太子、もう半分がタルタルソースと味が変わったものになっているが、まずはどう切り分けるかで悩む。ハートを真ん中で切るのはどうも抵抗があるので、端から食べると、これが美味しい！明太は万能だとはわかってはいたが、お好み焼きとも相性はばつちりで、あつという間にべろりといただく。お好み焼きは生地も厚く食べ応えがある。追加で注文していた一品料理と合わせて食べるとハートもお腹も満たされた。

さてここで皆さんに投げかけた質問の答え合わせを。それは『愛』である。「相手に伝わる言葉の最初が『愛』。だから『愛』は大切に素敵なものだね」と聞いた時に、筆者は「へー!!」と一驚した。そんな昔のことをハート玉を食べながら思い出した。その後この名言を語り継ぐと、何人かに自分なりに語るのだが、今のところ感銘を受けた様子はない。答えを聞いて「なるほど」と共感してくれた方はぜひ語り継いでほしい。

さぬきや
住 所：西成区鶴見橋1の16の10
営業時間：17時～21時
(ラストオーダー：20時30分)
定休日：毎週土・日
電話番号：06-6641-3589



そんなことに思いを巡らせながら食べ終え、「またおねがいします」とお母さんの満面の笑顔に送り出されて帰路につく。

文責：笹川勝正・山村裕太

にしなりもん

西成にもまだまだ発掘されていない文化資源・社会資源は存在するはず。これら西成産のモノやコトを「にしなりもん」と名づけ、その由来やエピソードを辿っていきます。

言葉と料理がつなぐもの 「さぬきや」

読者の皆さんには心に響く格言、名言がおりだろうか？ 筆者の好きな言葉は、山本五十六の「やってみせ」と豊臣秀吉の辞世の句「露と落ち露に消えにし我が身かな」だ。さらにもう一つ、中学生の頃に聞いた言葉が今でも心に残っている。それは『あ』で始まる一字で最初に意味が相手に伝わる言葉は何でしょう？」の答えなのだが、これから紹介する料理にも絡んでくるので、皆さんも考えてみてください。

前置きが長くなったが、12月の寒い夜に温かいお好み焼きが食べたくなつて訪れたのが「さぬきや」さん。賑やかな商店街から少し外れた道を進んでいくと、赤ちょうちんがお出迎え。

お店に入りさつそくメニューを見た。イカ玉、ミックス玉と定番のメニューの中に現れた「ハート玉」。「おー」と目を引いたこちらを注文。他にはぶた玉と、お店のお母さんおすすめのすじ焼

き。さらにメニュー表に「お好み焼き屋のレベルじゃない？ お刺身あります！」とあったのでお刺身も。

まずは一品料理をいただく。すじ焼きはビールによく合い、お酒が進む。お刺身もメニュー表のとおり確かにおいしくて、クオリティの高さに驚かされる。お腹が少し満たされたところで改めて店内を拝見、鉄板付きのテーブル席が5席、筆者は開店とほぼ同時にお伺いしたが、18時半ごろには満席となり、常連のお客さんが多く来られていて、勝手知ったるといった趣き。皆さん食事をしたり、テレビを見ながらお酒を飲んだりと地元で愛される素敵なお店



【谷口円】出身地の徳島県には電車が走っていません。ふと理由を調べると、「失われしアークが剣山に眠っていて、電車を通すとお遍路さんで作られた結界が壊れる」との説が…。初耳すぎる。



【田岡秀朋】今年は公営住宅を活用した居住支援に取り組みたい。大阪市の政策空家は7000戸以上。遊ばせるのはもったいない。尼崎市のように、低廉な利用料で活用できれば三方よしになるはず。



【笹川勝正】先日タコ焼き器を買って、家で子どもとタコ焼きパーティーを開催。初めて知ったのがタコって高い！ということ。予算オーバーのため半分はタコ無しでした。



【沖田一志】FaceBook投稿を自動化するためにPCで使えるRPAに初挑戦。深夜にHPの更新情報をDBに取得、翌朝にRPAタスクが走ってFaceBookに投稿。他の作業にも活用してみたい。

些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。
いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成に
たどり着いていた、或るオタクのてっちり系コラム。

『二極化するインナーシティ②』

天下茶屋への着目

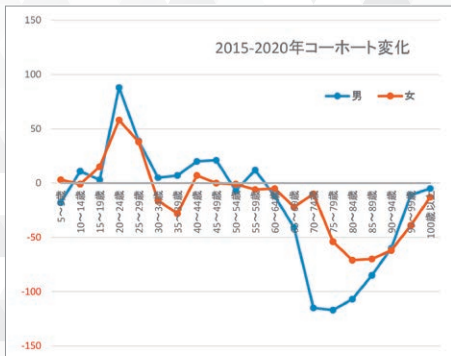
西成特区構想が三期目に入った。昨年度の総括で松井市長(当時)は、「新今宮は民間の力で自立してゆく布石が打てた、次は西成区の中核、天下茶屋駅周辺の再生を」という主旨の発言をされたと聞く。たしかに大阪のインナーシティの中でも天下茶屋の将来性やポテンシャルはきわめて高い。だが、その飛躍は一筋縄ではないだろう。

明治一八年の開設とともに天下茶屋駅周辺は、東側で上町台地側の邸宅街化、西側でロシア兵捕虜収容所の跡地利用に端を発する耕地整理をベースにしたユニークな郊外化が進んだ。

二〇〇〇年代、駅西側の南海電鉄天下茶屋工場が河内長野市に移転した後の跡地では、公共施設やマンション、スーパーなどを含む再開発が進められた。他方、駅東側は震災を免れた戦前の密集市街地(一部焼失したが戦後復興事業は施行されず)で、路地型のアーケード商店街は昭和の風情が残るものの人口動態的に見ると課題は多い。

人口動態からみた天下茶屋

天下茶屋一丁三丁目の人口は一九九五年の九六八〇人から二〇二〇年の六二〇九人と、三分の二にまで減少している。高齢化率は二〇一五年の

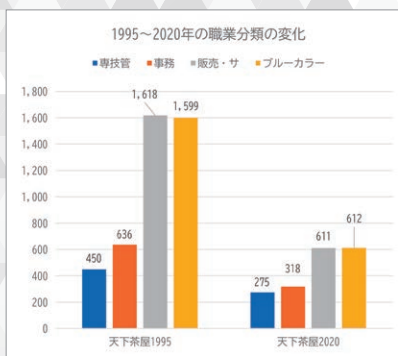


四・九%をピークに、二〇二〇年は四〇・〇%に下がり、今後は三〇%台を推移してゆくと推計される。
左図の年代別転出入をみると、比較的多い二〇歳代の転入は主に人口の一〇%を超える外国人である。中壮年では特に男性の転入が転出より多い傾向にある。ところが六五歳を超えると、男女とも自然減と見られる減少が顕著である。もともと高齢者人口の比率が高い地域なので、これを止めることは難しい。
下図はこの二五年間の職業別人口推移である。就労人口が四三・一〇人(四五%)から一九七〇人(三三%)と減少は著しいが、四分類した職業の比率は保たれ、販売・サービス業やブルカラー系職業がいまだに存在感を示している。

ポテンシャルを引き出す

以上から課題は、①二〇歳代の外国人若年層の受容 ②中壮年の流出を上回る流入の傾向を維持する施策、③高齢層が安心できる終の棲家の維持・更新となるだろう。また、まちづくりの観点からは④人口動態に反映されない潜在者を受け止める民泊、⑤その大部分が中国人の運営であることに對する地域での折り合い、そして⑥乗降客の多い駅周辺の駅前アーケード街や路地での小店舗やサービス業の強化(既存・新規参入ともに)が考えられる。
災害への脆弱さといった課題も抱えているが、多くの可能性を秘めたエリアであることは間違いなく、その変貌を期待したい。

ハンブレイ・T



秋の遠足でミカン狩りを楽しみました！ 天気も良く陽ざしもほかほか。初めてみるみかん畑にみんな大喜び。いっぱい食べて、いっぱい歩いて、いっぱい笑いました。



「ボッチャ」というスポーツをご存じだろうか。「坊っちゃん」ではなく「ボッチャ」である。最初にコート内の玉となる白球を投げ入れ、マイボールを投げたり蹴ったりして、できるだけ白球の近くにマイボールを残す競技だ。ボッチャは年齢、性別、障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が一緒にプレイできる。
12月5日に西成区民センターでボッチャ大会(ジャガピー杯)が開催され、



多くの方が参加した。みなさん、この日のために練習をしてきたのだろう、なかなかの腕前である。ボッチャは競技だが、ナイスピッチングをすれば相手チームからも拍手が送られ、温かい雰囲気で行われていた。
筆者は長橋地活協の方々に参加したが、わずかな練習不足とアンラッキーが重なり全敗に終わってしまった。しかし、参加者はまるで優勝争いをしているのかのように競技に熱中し、楽しそうだった。熱中できるものがあれば、人も地域も元気になる。来年の1勝を目指して練習会を企画しようか。

大阪市の住民参加型地域組織「地域活動協議会」の活動に橋を架けよう「近ツ橋【ちかつきょう】」



[安田拓也] 上達のために必要なこと。一つ一つ丁寧に、隅々までコントロールされていること。簡単なものからこだわる練習を。当たり前のように、なかなか難しい。隙のない演奏に引き込まれる。



[福井龍磨] 1983年のイギリス映画『ローカル・ヒーロー』を久々に観た。地味な映画だが、常に心の片隅にあって、疲れた時などに観返すことがある。マーク・ノップラーの音楽が滋味深く素晴らしい。



[西田吉志] 契約している駐車場が閉鎖のため今月末をもって契約を解除するとの通知が自宅に届いた。3週間前とえらい急な解約通知で、「おいおい…」と思ったけど、苦情はあとにせずは新しい駐車場を探さないと。

葉っぱの吐見

といき

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。



「葉牡丹の葉っぱ」の巻

ふゆびより
冬日和のお散歩中
ふと目にはいったかわいいあなた
あなたの前で立ち止まり
じーっと見つめてしまったわたし
白 黄 ピンク 紫 緑
色とりどりの葉っぱがステキ
どうしてそんなに洒落なの
あなたに尋ねてうなずくわたし
新しい年 辰の年
あなたが輝くはじまりの年。

赤井まゆみ

葉牡丹のこと

新年によく見かける葉牡丹。門松の添え物にも利用される。花言葉は「祝福」「愛を包む」



い湯かげん

初夢「サインはS！」

新年だから夢を語りたい。ナイス創業の時、ボクは「小さな会社が大きな仕事をする」を夢みてエルチャレンジを創り、そこから「行政の福祉化(公契約の総合評価入札)」が生まれた。それを美交工業の福田久美子さんは「社会のために始めたことが会社のためになった」と喜んでくれた。さらに大阪府は、松井知事の時代、ハートフル条例(2018年改正)で「大阪の福祉化」と夢を膨らませてくれた。

「大阪の福祉化」をカタチにしようという検討を重ねたら認証のアイデアが出てきた。社会に貢献する企業を認証するという意味で「S」な認証。その評価項目には福祉、人権、環境、雇用、地域などがある。顕彰

の機会に恵まれない中小企業をノミネートし、第三者委員会がチャレンジ、アドバンスの二段階で認証する。

話はけっこう進んでいて、認証のための一般社団法人はすでに設立され、第三者委員会も発足間近。ハートフル条例が認定するエルチャレンジやAダッシュワーク創造館などの中間支援組織が認証のための企業支援と求人開発の両面から支援すること、そして総合評価入札による公契約という先行例の存在が大阪の特徴だ。お隣の京都では先んじて「S認証」がスタートし、大学や信用金庫などで第三者委員会を設け、すでに1000社近い企業がエントリーしているという。

このシステムが動き出すと、福祉法人や靴メーカー企業などへの求職が増えたり、地域の高技術企業へのオフアアが生まれたり、融資などの契約がスピーディになったり、そんな夢が膨らむ。「行政の福祉化」が公契約に限定されるのに対して、「大阪の福祉化」は、民間市場での自由取引による広がりが期待できる。ただし、行政の推奨は間接的な種蒔きに留まるので、効果が現れるにはどうしても時間がかかる。

取り組みの場が行政から民間に広がるという点では、障害者差別解消法での「合理的配慮が似ている。24年から「民間でも義務化」になり、障がい者から障壁の改善申立てができるようになる。この義務化は会社の福祉化や人権化の動機になるので、合理的配慮を率先する民間企業が増えるだろう。解放同盟の赤井隆史委員長は、こうした動向は「デューデリジェンス」つまり「人権リスク回避の情報公開」と称されるものだ、早くから推奨されていた。堂目卓生阪大教授は「共感経済」と規定されている。大阪版S認証は

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



年の瀬は自民党の各派閥による政治資金パーティーの裏金問題で政界が大きく揺れた。派閥は所属議員にパーティー券のノルマを課す。そのノルマ超過分が所属議員にキックバックされるそうだが、その収支が政治資金収支報告書に記載されずに裏金(脱税の疑い)になっていた。こうした政界のお金を巡る問題は、政治資金規正法の改正(1994)以降も繰り返されてきたのが現実だ。

今回の事件も幾人かの議員が辞職を迫られるだけで、根本的な部分は未解決のまま時だけが過ぎ国民の記憶から薄れていくのだろうか。政治資金規正法や政治活動の在り方を変えなければいけないし、監視する絶対的な第三者機関の存在が必要だと思う。そのために政治資金の収支報告にこそインボイス制度を採用すればよい。責任を果たすまでもなく、すべてが説明できるはずだ。

ところでこれだけ国民の政治不信が高まって、与党に代わる野党の存在があまりに弱く、国民に選択肢がないのも問題だ。(寺本良弘)

こうした理念を身近に体现するものだ。

うーん、書いててもちよっと難しい。そもその始まりは就労支援だから、直接的な雇用斡旋な比べ、種蒔きの間接的だ。しかし、就労支援は足らずを補うことと事業を興すことの両面からなされるべきだ。福祉にも人権にも同じことが言える。

20年も前、ボクが「障がい者雇用は、罰するよりも競う」と言ったら皆が口あんぐりだった。でも、今の大阪では総合評価入札が常識になった。「サインはS」、そんな時代が幕を開ける、これが(株)サインの創業以来の変わらぬビジネスモデルだ。



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。



[若松司] 晴れた日の午後、長閑な日の光のなかを歩いていると、穏やかで幸せそうな家族の姿をよく見かける。メディアの向こうに広がる「現実」は絶望的だが、こういう世界もある。



[山村裕太] 髪を切り終わった後に床へ目を落とすと、中々の数の白髪を発見。精神年齢は18歳から変わっていませんが、自分がおっさんになってしまったことを実感しました。

地域の縁を心でつなぐ

心の時間

た。そして最後に残ったAさんを「赤」が招き寄せて、ゲーム終了。

教師は「Aさんは友達の為に動き、みんなが協力して問題が解決しました。同じように、困っている人を助けることで、自分の困りごとを解決できるようになります」と「利他の心」の大切さを伝えたのでした。この話を聞き、「他人を大切にすることは、自分を大切にすることに他ならない」と気づかされました。と同時に、ふと「自分を愛するあまり、他人を害することがあってはならない」というお釈迦様の言葉も浮かんできました。どうやら、ここらに人間関係の悩みを解決するヒントが秘められているようです。

松向寺 通法

こんな話を聞きました。ある

教師が生徒全員の目を閉じさせ、赤白帽を被せました。生徒たちに「しゃべらない。自分の帽子も見ないで、赤と白に分かれましょう」と告げ、ゲーム開始。しばらくすると、生徒Aさんが「赤」同士の手を握らせていきました。その他の生徒たちは自ずと「白」だと気づき、ついに全員が赤と白に分かれました。

ココロドコ

ここはどこ？
わたしはぜんぜん？
編集部が厳選した
「にしなり100景」
大公開！

前回に引き続き、屋内からの出題です！壁面に飾られた味のある絵。紙ではなく、タイルに描かれています。絵の内容が場所のヒントになっていますね。ココロドコだか答えを知りたい人は、ゆ〜とあいの受付までお問い合わせください！

出城2丁目5-20の、ウェルおおさか(大阪市社会福祉研修・情報センター)でした！ぜひ気軽にのぞいてみてください。

【先月号の答え】



ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび1月号(vol.203)

発行日:2024年1月1日(創刊日:2007年1月1日)

発行:株式会社ナイス

住所:大阪市西成区長橋 3-6-33

電話:06-6563-1150

E-mail:info@nice.ne.jp

url:https://www.nice.ne.jp/

編集長:西田吉志

編集:沖田一志、笹川勝正、田岡秀朋、福井龍磨、安田拓也、山村裕太、若松司(あいいうお順)

イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円

(株)ナイス
ホームページ

